【大学等・一般の部】 優秀賞

私を支えるつながり

大分市 秋吉 和代

今の私を支えているもの、それを考えると一番に出てくるのは子ども達の笑顔だ。今年6歳になった娘と2歳になった息子。二人に出会うまで自分では決してみることができなかった世界が、いま目の前にある。

こうして文章を書きながら、隣の部屋で眠る子供たちの寝顔を見ていると、この穏やかな時間というのはかけがえのない時間なのだと改めて感じることができる。

そんな私は、育休中で社会とのつながりが薄い状況にある。産後1年くらいは、小さな息子と毎日家で過ごすだけでいっぱいいっぱいに感じることが多かった。そんなときに出会ったのが、子育て支援センターだった。県外出身者である自分にとって、その場所は、いつも誰かが笑顔をくれる、安心させてくれる場所でもある。そこに行けば、同じように小さな子どもと過ごし、困ったり、悩んだりもしているお母さん達に出会うこともできる。大分市が開催しているNPという講座にも参加し、子育ての悩みについて語り合う機会を得た。講座の間は、子どもは託児にお願いでき、同じ時期に出産、子育てを体験しているママたちと過ごすことができた。少しの時間ではあるけれど、子どもと離れることで、講座終了後にがんばった子どもを抱きしめたくなった。母親なら子どもと一緒にいてその面倒を見るのは当たり前。そんな時間は幸せであるに違いない。今の自分が持っている不満は、間違っている。どこかで何となくそう思い込んでいたことに気づかされた。

こうした体験から感じたことは、当事者にならないとわからないことが多くあるということ、困ったときは自分から動いてみることの大切さだった。一人の子育ての時には気づかなかったこと、二人目の育児で驚かされたこと。性別の違う子どもの子育て、実家が遠い状況での子育てなど。様々なつながりやサポートを受け、ようやく自分なりに現状を受け入れられるようになった。

大分県に住んでからずっと興味のあった大分検定を昨年受けてみた。大分県出身の夫には当たり前に思うお祭りや習慣も時として驚きを与えてくれるものだと気づくことができた。観光ガイドブックに掲載されていない事柄がたくさんあり、大分県を知るいい機会となった。子育て中だし、まだ手一杯だし、と思ったりもしたけれど、「受験する」という目標と向き合えたことは自分にとって大きな学びとなった。

振り返ると自分はたくさんの「つながり」に支えられてきた。今は大分に住む知り合いが少しずつ増え、日々学ぶことができている。子どもを通じてのつながりはもちろん、自分自身が興味を持つ、過去に参加させてもらった内閣府世界の船、九州青年の船などの仲間とのつながりなど。いろんな縁やつながりのおかげで、自分の居場所が広がって、楽しいと感じる機会が増えてきた。

6歳になった娘にいつも話しているのは「人は誰かに支えられて生きている」ということだ。つながりがあるから、当たり前と思えるような日常を過ごすことができている。

縁あって住むことになった大分。この街で育つ子どもたちから学びつつ、自分自身も学んでいくことを忘れずに。そして以前の自分と同じように「私だけ」と感じている人達に「つながり」を得る機会を与えられるようなそんな人になりたい、今はそう思っている。